

## 1. 研究テーマ

「豊かな教育を子どもたちに」

## 2. 研究組織

東山梨地区の教育条件整備部会は、校長1名・教頭1名・事務職員30名 合計32名により構成され、昨年度に引き続き二つの支会（山梨市・甲州市）単位で研究を進めている。

山梨支会は、事務職員12名で構成されている。学校設置状況は、小学校8校・中学校3校の計11校であり、中学校1校で複数配置となっている。

## 3. 研究日程

月 日	会 場	内 容
5月10日（水）	塩山南小学校	・全体会・研究テーマの決定
5月24日（水）	塩山中学校	・研究内容の決定 ・前年度決算・当初予算推移の結果分析（作成の確認） ・私費の取扱について（提案・作成の確認） ・校務支援ソフトについて（他郡市の仕様等の情報交換）
6月14日（水）	加納岩小学校	・改正法及び新学習指導要領についての学習会（義務教育課指導主事招聘） 図書館システム学習会（7月26日）
7月31日（月）	加納岩小学校	・学校組織マネジメントにおける事務職員の職務について（学習） ・学校施設見学（事務職員のマネジメント機能を含めて実践交流） ・前年度決算・当初予算推移の結果分析（各校の資料・情報交換）
8月30日（水）	塩山中学校	・校務支援システムに関する情報交換
9月20日（水）	塩山南小学校	・全体会・支会ごと中間報告 ・私費の会計システムに関する課題整理と今後の改善について
11月29日（水）	塩山中学校	・予算要求・ヒアリングの情報交換
1月10日（水）	塩山中学校	・活動について（次年度の方向性の検討）
2月 7日（水）	塩山中学校	・山梨支会まとめ
2月14日（水）	塩山南小学校	・全体会・支会ごとまとめ、次年度の方向性

### （昨年度までの研究成果と課題）

#### ・研究内容

- 前年度決算・当初予算推移の結果分析
- 私費の調査・分析
- 県外視察研修（立川防災館）
- 共通予算要望書の作成
- ミニ学習会

## ・成果

継続研究となっている予算分析を実施し、自校予算の編成について、成果・課題をまとめることができた。

2年目のとりくみとなった私費の調査は、各校の私費に関わる処理の様子から、会計簿の統一や報告・監査・保存の流れの徹底、未納者の対応等の課題解決に発展させていく必要があることが分かった。

県外視察研修では東京都・立川防災館を見学した。首都圏の非常災害時に、中心的役割を担えるよう考えられた施設の見学を通して、学校現場の日常の中で災害が発生した場合に、本当に安全・安心を確保できる施設・設備が整っているか、防災の意識を再確認する機会となった。

共通予算要望書は例年、本部会と同一メンバーで構成されている事務担当者会議の中で項目の検討をおこなってきたが、2016年度は本部会との共同研究とし、項目の検討や資料作成をおこなった。資料作成時には、中学校ブロックに囚われないグループ編成で作業分担をおこない、今まで以上に山梨市の小中学校の実態に即した要望を挙げることができた。

ミニ学習会では、本部会員を講師として、子どもの貧困や学校施設の長寿命化、地方公会計について研修をおこなった。学校現場が抱えるタイムリーな問題について、同じ立場の事務職員から説明を受けることは、経験の浅い事務職員にとっても理解しやすく、また討議も深められるため有意義な場となった。

## ・課題

例年、年度始めの研究会で予算分析をおこなっているが、自校の執行状況を確認する上では、決算表を年度途中に活用することも有効であるとの意見が出された。また、スクールバスの弾力的な運用が可能になったことで、バス・タクシー代の予算要求・執行を慎重に進めていかなければならないことが確認された。限られた予算を最大限に活用できるよう、改善の案を出し合い、次年度予算へ反映できるよう今後も方法を探っていきたい。

県外視察研修では、体験型の講習で防災について学んだが、実際に学校に備蓄されているものがどれだけの期間をしのげるものなのか、市として明確な基準が必要ではないかと感じた。避難訓練等も、学校独自でおこなうものに加えて、市町村のJアラートの試験とあわせて実施していくことはできないだろうかという意見が出された。安全で安心な学校生活を保障していくために、とりくみを進めていきたい。

## 4. 今年度の研究内容

研究を進めるにあたり、限られた研究時間の中でおこなうことを考え、昨年度からの継続研究、市事務担当者会との共同研究等、以下の4つをおこなうことを確認した。

- 1) 前年度決算・当初予算推移の結果分析
- 2) 法改正と学校組織マネジメントについて（研修）
- 3) 私費の取り扱いについて・校務支援システムに関する情報交換
- 4) 新学習指導要領の理解と教育環境整備についての学習

## 5. 研究の経過

### 1) 前年度決算・当初予算推移の結果分析

「学校配当予算分析表」(資料1)、「学校配当予算一覧表」(資料2)、「学校配当予算・決算一覧表」(資料3)を用いて、市内各校の予算分析をおこなった。2006年度から継続しているこの分析は、予算令達額、前年度決算額を入力することで、グラフや割合の推移を見ることができる。

2016年度決算については、前年度の市内小中学校の決算残額と比較すると、やや減少していることが分かった。中でも、例年、価格変動や厳冬暖冬により見込み額の見極めが難しい管理・燃料費の残額が減少傾向にあることがわかった。これは、2016年度に市内全小中学校の普通教室・特別教室にエアコンが設置され(一部未設置の教室有り)、エアコンに関わる燃料費は市教委予算で執行されるという方針が出されたため、冬季の暖房をエアコンに切り替え、管理・燃料費を他の費目に補正(組替)をして執行した学校が多くあったことが理由に挙げられる。給食・燃料費についても、昨年度と比較して残額は減少していた。しかし、委託業者や栄養教職員と連絡を取りながら執行しているものの、献立の内容や気温・水温によってガスの使用量に変動があるため、各校では対応に苦慮したことと思われる。また、3月補正時期に市教委から方針(同一節内の場合、補正ではなく流用で対応)が出されたが、実際に流用の手続きをしたところ、財政課より指導があったという学校があった。市教委との情報交換を一層密にして、財政課の意向を把握する必要がある。

2017年度当初予算配当については、エアコンに関わる燃料費分として、管理・燃料費の要求金額から前年度配当金額の2分の1を減額して配当すると予算要求時に市教委から示された。ストーブを使用しない方向で対応している学校が多くあるが、今後冬季のエアコン使用に関わる指針等が出されるのか、市教委との情報交換をしていく必要がある。

## 2) 法改正と学校組織マネジメントについて

今年4月、義務教育諸学校等に関わる法律が改正され、事務職員の職務内容についても「事務に従事する」とされていた部分が「事務をつかさどる」と改正された。このことを受けて、私たちの職務はどのように変わっていくのか、また、共同学校事務室やチーム学校等、私たちの教育現場でのあり方や仕事への向き合い方について理解を深めるために、第3回研究日に「改正法及び新学習指導要領についての学習会」というテーマで、義務教育課より重田誠主幹・指導主事、小田切武副主幹・指導主事をお招きして学習会をおこなった。事前に事務職員側から、事務職員の職責や学校マネジメント、職務内容や共同実施について質疑等の意見集約をおこなった。学習会の中では、両指導主事から意見集約に絡めた内容でお話を頂き、さらに事務職員全員の意見発表もおこない、市内事務職員の職務に対する思いや姿勢を伝える機会となった。学習会を通して、チーム学校や学校マネジメントに必要なことは「主体的」であることだということが分かった。「事務をつかさどる」職員として、率先して管理職が請負う事務を掌握して処理し、学校運営に参画していくことが求められている。しかし、そのことが事務職員の負担につながることは非効率的であるため、「共同学校事務室」の設置に向けては、経験年数に関わらず標準的な事務処理がすすめられることにも絡めて、要綱の整備や市教委との連携を進めていく必要がある。学校に関わる全ての教職員が、立場は違っても見据えているものが同じであることがチームとして大切であると、学習会を通して確認された。

学校組織マネジメントについては、第4回研究会の中で本部会員を講師とし、経験の浅い事務職員にも理解しやすいようパワーポイント(資料4)を使ってミニ学習会をおこなった。組

織の中で人材や資金，設備，物資，スケジュール等をバランスよく調整し，全体の進捗状況を管理する手法がマネジメントであるという話を受け，自分の職務に対する個性を把握するためにセルフマネジメント（自己分析）をおこなった。強みとなる自分の個性を把握することで，自己研修や業務改善への糸口となった。

### 3) 私費の取り扱いについて・校務支援システムに関する情報交換

2015年度より私費の調査・分析をおこなってきた。昨年度までのとりくみから，自校及び市内小中学校の私費の徴収状況は概ね把握ができた。今年度は私費の徴収方法や取り扱いについて，会計担当者の負担軽減や事務処理の効率化を目的とし，事務担当者として会計担当者にアドバイスできることはないかを検討することとした。学校ごとに会計処理日程が異なるため，今後は実践シート（資料5）をもとに，自校の現状を把握し，課題整理と今後の改善について，検討していく。

校務支援システムについては，山梨市で2018年度に導入予定となっているため，2017年度中に要望の提出，システムの概要の決定がされる。私費会計や教科書事務，転出入，就学援助等ともリンクしたシステムが導入されれば，業務の効率化や職員の多忙感解消につながると考え，既に導入されている市町村の状況を視察・調査した。その結果，限られた機能しか使えなかったり，事務職員にシステムへのアクセス権限がなかったりといった市町村があることが分かった。どの市町村にも共通していたことは，基本機能にオプションという形で他の機能が付属してくるため，希望の形にしていくためには予算が必要であるということだった。市事務担当者会内から2名が校務支援システムの検討委員会に参加しており，その参加者から上記調査結果をふまえた要望を市教委へ伝えた。

### 4) 新学習指導要領の理解と教育環境整備についての学習（図書館システム学習会）

2) で挙げた「改正法及び新学習指導要領についての学習会」において，事務職員はカリキュラムマネジメントの部分に大きく関わってくるという説明があった。新学習指導要領のポイントとして，アクティブラーニングが挙げられるが，主体的な学びのためには教員の授業改善が必要となり，授業改善のためには予算の運用，設備面の活用等，諸条件の整備が必要である。条件整備の具体例として，教材，教育環境の充実，ICTの整備等が挙げられた。特に学校図書館は読書活動だけではなく，調べ学習にも使えるよう充実させることが必要であり，ここでもICTが重要な役割をもっているとの話があった。

そこで，市事務担当者会から市教委へ毎年提出している共通予算要望書の中に，図書館システムの導入を要望事項の筆頭に加え，さらに実現に向けて市教委・管理職・図書館司書・事務職員の4者合同で図書館システムの学習会を開いた。山梨市では，2016年に市立図書館が改装され，小中学校と連携しての蔵書管理ができる容量の新図書館システムが導入されたが，市内小中学校は依然として個人帯出カードによる貸し出しが続いている。学校も公立図書館と同様のシステムを使うことで，蔵書の検索や他校の蔵書を相互貸借することが可能になる。学習会では市立図書館に導入されているウェブアイリスというシステムを作成している棚ワイ・シー・シーのSE有泉様を講師に，デモ形式でシステムの説明を受けた。基本的には1台のパソコンで貸し出し等の処理をしていくが，タブレット等と連携させることで，利用者向けのお知らせの表示や，利用者による蔵書の検索・予約申請等が可能になる。さらに，蔵書点検作業

も、従来は数年に1度のサイクルで市内の司書が集まり、学校を回って数日かけて点検をおこなってきたが、システムを利用することで蔵書に貼られたバーコードを読み込むと点検が完了し、読み込みがされなかった本が不明本としてリスト化される。複数人で作業をする必要がないため、司書の移動の負担軽減、また、毎年点検作業ができるという利点があることがわかった。導入費用等の話題はなかったが、システムの有効性や利便性を4者で共通理解する良い機会となり、今後の動向が期待される。

## 5. 研究のまとめ

補正（組替）予算については、前述のとおり、市教委と財政課との方針が異なるということがあった。限りある予算を有効に執行したいという学校と、事業がない場合に無理に執行する必要はないという行政との考え方の違いがあると感じた。今後は、執行できないということがないよう、3月補正ではなく可能であれば12月補正で対応していくことを事務職員で確認した。また、2018年度予算要求の方向性については、市内全小中学校が給食センター化となるため、これまで学校に配当されていた給食指導に関わる消耗品費や燃料費について、どのように対応していくのか市教委からの方針を待っている。特に燃料費については、給食室と校舎のガスが一本化されている学校があり、校舎のみのガス代の見込み額の算出ができない現状がある。こうした状況も市教委に伝える中で、スムーズにセンター化に移行できるよう、対応していく必要がある。

校務支援システム検討委員会は当初、管理職・教員・市担当者の3者で構成される予定であったが、各専門職員から要望を出し、養護教諭・栄養教職員・事務職員も検討委員会に入ることができた。他市町村の導入の様子を聞き取りに出かけ改善すべき内容を整理して、就学援助や教科書システム等の事務処理とリンクできるよう要望を挙げたが、結果は反映されていない。

図書館システムについては、これまでも司書独自の要求はされてきた。図書館司書に正規職員が少なく兼務や臨時的任用職員の多い実態から、学校全体としての予算要望に繋がらない状況があったが、市内の共通要望に掲げ学習会を経て、4者が子ども達のためと同じ方向を見ることができた。昨年度より、市内司書が集まっておこなう蔵書点検作業はなくなり、各校での作業となってしまったため、司書の負担軽減や、図書室閉館期間の短縮のためにも早期導入が求められるが、校務支援ソフト検討委員会の折に、今後の予定として「2021年度に図書館情報化の検討」をするということが明らかにされ、図書館システム導入は早急な対応には至っていない。

今年度取り上げたいずれの課題も、現在成果としての結果が得られてはいないが、今とりくむべき内容について気づき、具体的に行動するという点については、意欲的に関わることができた。

私たち事務職員の職務内容は年々複雑多岐になり、より高い精度を求められている。特に今年は法改正もあり、事務職員の職務に一層関心が高まっている。市内全ての子どもたちのため、事務の標準化や教職員の業務負担軽減につながるアドバイスを含めた教育条件整備運動に、今後とも12名でとりくんでいきたい。

学校配当予算分析表

基礎数値(5月1日)		児童生徒数(人)		187		学校数(校)		B	
<b>学校管理費</b>									
節	細節	29年度 合算額(円)	28年度 合算額(円)	対前年度比 増減(%)	一人当り の額(円/a)	29年度 要求額(円)	対要求比 増減(%)	〇〇学校	
報償費	報償金	973,000	971,000	2,000 (+0.2%)	5,203	973,000	0 (+0.0%)	学校管理費	
	消耗品費	54,000	54,000	0 (+0.0%)	289	54,000	0 (+0.0%)	29年度当初予算配当の成果及び問題点	
	消耗品費(医薬)	164,000	214,000	-50,000 (-23.1%)	877	238,000	-74,000 (-31.1%)	●水道管の水漏れ等の確認の老朽化が進んでいたり、ドアの立て付けや排水管のなまり等など、建設当初からの施設に因る問題箇所があるので、学校配当の修繕費だけではなく主要事業予算要求とより積極的に予算要求していききたい。	
	燃料費	2,000	2,000	0 (+0.0%)	11	2,000	0 (+0.0%)	●燃費向上があげられ、燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
	印刷製本費	0	0	0	0	0	0	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
	修繕費	110,000	110,000	0 (+0.0%)	588	110,000	0 (+0.0%)	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
役員費	手数料	64,000	62,000	2,000 (+3.2%)	342	61,000	0 (+0.0%)	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
使用料・賃借料	賃借料	133,000	133,000	0 (+0.0%)	711	133,000	0 (+0.0%)	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
原材料費	原材料	0	0	0	0	0	0	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
備品購入費	庁用備品	0	0	0	0	0	0	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
合計	合計	1,500,000	1,588,000	-88,000 (-5.1%)	8,021	1,574,000	-74,000 (-4.7%)	〇〇学校	
<b>教育振興費</b>									
節	細節	29年度 合算額(円)	28年度 合算額(円)	対前年度比 増減(%)	一人当り の額(円/a)	29年度 要求額(円)	対要求比 増減(%)	教育振興費	
報償費	報償金	61,000	69,000	-8,000 (-11.6%)	326	61,000	0 (+0.0%)	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
	消耗品費	1,437,000	1,438,000	-1,000 (-0.1%)	7,684	1,437,000	0 (+0.0%)	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
	消耗品費(図書)	717,000	759,000	-12,000 (-1.6%)	3,995	747,000	0 (+0.0%)	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
需用費	印刷製本費	13,000	13,000	0 (+0.0%)	70	13,000	0 (+0.0%)	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
	修繕費	40,000	40,000	0 (+0.0%)	214	40,000	0 (+0.0%)	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
	原材料費	0	0	0	0	0	0	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
	通信運搬費	15,000	15,000	0 (+0.0%)	80	15,000	0 (+0.0%)	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
役員費	保険料	0	0	0	0	0	0	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
使用料・賃借料	賃借料	163,000	106,000	57,000 (+53.8%)	872	163,000	0 (+0.0%)	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
備品購入費	備品購入費	0	0	0	0	0	0	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
合計	合計	2,476,000	2,440,000	36,000 (+1.5%)	13,241	2,476,000	0 (+0.0%)	〇〇学校	
<b>学校給食費</b>									
節	細節	29年度 合算額(円)	28年度 合算額(円)	対前年度比 増減(%)	一人当り の額(円/a)	29年度 要求額(円)	対要求比 増減(%)	学校給食費	
需用費	消耗品費	366,000	390,000	-24,000 (-6.2%)	1,957	366,000	0 (+0.0%)	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
	燃料費	1,193,000	1,193,000	0 (+0.0%)	6,380	1,193,000	0 (+0.0%)	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
	修繕費	100,000	100,000	0 (+0.0%)	535	100,000	0 (+0.0%)	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	
合計	合計	1,659,000	1,683,000	-24,000 (-1.4%)	8,872	1,659,000	0 (+0.0%)	●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。	

〇〇学校

学校管理費

29年度当初予算配当の成果及び問題点

●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。

●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。

●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。

教育振興費

29年度当初予算配当の成果及び問題点

○要求額と対応が確保された。

●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。

●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。

●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。

学校給食費

29年度当初予算配当の成果及び問題点

●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。

●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。

●燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。燃費向上が実現している。

〇〇学校

学校管理費

30年度予算要求の方向

水道管の水漏れ等の確認の老朽化が進んでいたり、ドアの立て付けや排水管のなまり等など、建設当初からの施設に因る問題箇所があるので、学校配当の修繕費だけではなく主要事業予算要求とより積極的に予算要求していききたい。

教育振興費

30年度予算要求の方向

今の段階では各教科備品と不足等は必要項目は成立しているが、急な取替や教科書改訂を控えて必要な物品が見えてきたときに、実態を明らかにして要求していく必要がある。

・H7年購入のジグザグミンシンの廃棄、新規購入検討

・高学年用バーがゆがんでいいため、購入検討

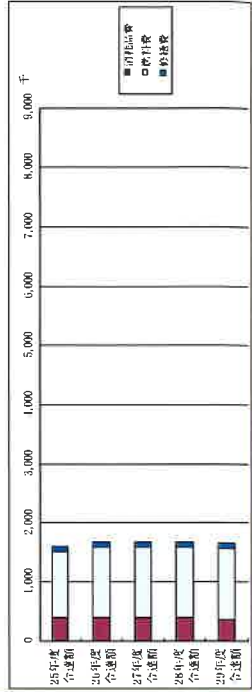
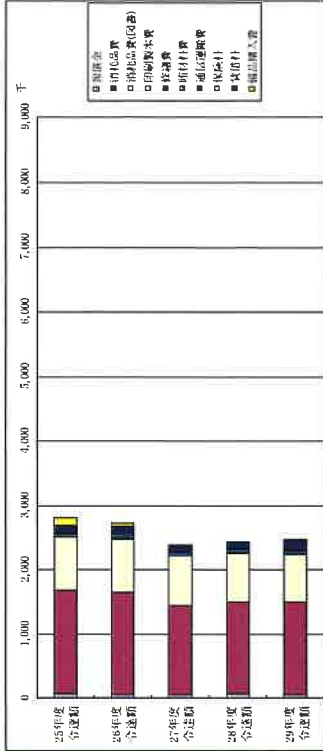
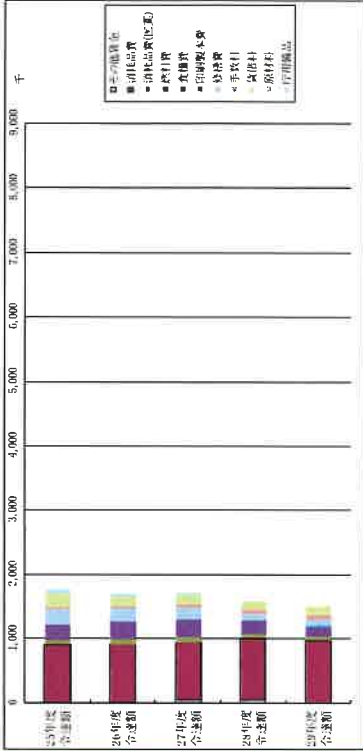
・大玉(昔)120cmの空き箱あり、購入検討

学校給食費

30年度予算要求の方向

給食センター化したときに、今まで学校に配当されていた予算がどうなるか、慎重に市教委と協議していきたい。(金額減り、上げなのか一部なのか、一部であれば車両×児童数で減り上げなのか、現在の配当額(何割か)なのか)

		〇〇学校				
		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
児童生徒数		209	203	203	199	187
学級数		7	7	7	7	6
<b>学校管理費</b>						
節	細節	25年度 合算額	26年度 合算額	27年度 合算額	28年度 合算額	29年度 合算額
賃金	その他賃金	0	0	40,000	40,000	0
	消耗品費	906,000	917,000	916,000	971,000	973,000
	消耗品費(医薬)	59,000	59,000	60,000	54,000	54,000
	燃料費	251,000	284,000	281,000	214,000	184,000
	食糧費	6,000	5,000	2,000	2,000	2,000
	印刷製本費	0	0	0	0	0
	修繕費	220,000	200,000	190,000	110,000	110,000
	手数料	42,000	40,000	43,000	62,000	64,000
	使用料・賃借料	220,000	150,000	150,000	133,000	133,000
	原材料費	0	0	0	0	0
	備品購入費	58,000	43,000	33,000	0	0
	合計	1,765,000	1,698,000	1,716,000	1,586,000	1,500,000
<b>教育振興費</b>						
節	細節	25年度 合算額	26年度 合算額	27年度 合算額	28年度 合算額	29年度 合算額
施設費	雑費金	68,000	61,000	60,000	69,000	61,000
	消耗品費	1,612,000	1,598,000	1,395,000	1,438,000	1,137,000
	消耗品費(医薬)	83,000	823,000	762,000	759,000	747,000
	印刷製本費	20,000	13,000	13,000	13,000	13,000
	修繕費	10,000	40,000	40,000	40,000	10,000
	明材料費	0	0	0	0	0
	通信運搬費	19,000	19,000	15,000	15,000	15,000
	保険料	0	0	0	0	0
	使用料・賃借料	120,000	126,000	115,000	106,000	163,000
	備品購入費	107,000	43,000	43,000	0	0
	合計	2,809,000	2,723,000	2,400,000	2,440,000	2,476,000
<b>学校給食費</b>						
節	細節	25年度 合算額	26年度 合算額	27年度 合算額	28年度 合算額	29年度 合算額
	消耗品費	390,000	390,000	390,000	390,000	366,000
	燃料費	1,116,000	1,193,000	1,193,000	1,193,000	1,193,000
	修繕費	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	合計	1,606,000	1,683,000	1,683,000	1,683,000	1,659,000



## 学校配当予算・決算一覧表

〇〇学校

児童生徒数	28年度	前年比
	199	-4

## 学校管理費

節	細節	28年度 令達額	組替後 予算額	28年度 決算額	残額	比較%	予算・決算の課題
賃金	その他賃金	40,000	40,000	40,000	0	100%	○消耗品費や使賃料等は、年度末まで状況をみながら、無駄なく執行することができた。 ※消耗品費については、保健室消耗と医薬材料の兼ね合いでマイナスとなっているが、総枠としては予算内で執行できた。 ●使賃料は3月補正で減額をしたが、見込が甘く残額を残してしまった。
需用費	消耗品費	971,000	971,000	1,004,450	-33,450	103%	
	消耗品費(医薬)	54,000	54,000	20,410	33,590	38%	
	燃料費	214,000	158,000	137,744	20,256	87%	
	食糧費	2,000	2,000	1,782	218	89%	
	印刷製本費	0	0	0	0	#####	
	修繕費	110,000	145,000	144,983	17	100%	
役務費	手数料	62,000	62,000	58,412	3,588	94%	
使用料・賃借料	賃借料	133,000	88,000	75,179	12,821	85%	
原材料費	原材料	0	0	0	0	#####	
備品購入費	庁用備品	0	26,000	25,920	80	100%	
合計		1,586,000	1,546,000	1,508,880	37,120	98%	

## 教育振興費

節	細節	28年度 令達額	組替後 予算額	28年度 決算額	残額	比較%	予算・決算の課題
報償費	報償金	69,000	45,000	44,950	50	100%	○報償費や使賃料等は、年度末まで状況をみながら、無駄なく執行することができた。 ●消耗品について、伺いを重複してとっているものがあり削除したため、残額が残ってしまった。
需用費	消耗品費	1,438,000	1,720,000	1,677,740	42,260	98%	
	消耗品費(図書)	759,000	759,000	759,000	0	100%	
	印刷製本費	13,000	8,000	7,056	944	88%	
	修繕費	40,000	35,000	34,560	440	99%	
	賄材料費	0	0	0	0	#####	
役務費	通信運搬費	15,000	15,000	15,000	0	100%	
	保険料	0	0	0	0	#####	
使用料・賃借料	賃借料	106,000	86,000	85,840	160	100%	
備品購入費	備品購入費	0	0	0	0	#####	
合計		2,440,000	2,668,000	2,624,146	43,854	98%	

## 学校給食費

節	細節	28年度 令達額	組替後 予算額	28年度 決算額	残額	比較%	予算・決算の課題
需用費	消耗品費	390,000	390,000	389,996	4	100%	○全体を通して、年度末まで状況をみながら、無駄なく執行することができた。 ※内訳 消耗品…ストロー・マドレーヌカップ・ラップ・洗剤・ふきん・ビニール袋・給食着等 ガス代…給食用LPガスのみ
	燃料費	1,193,000	1,005,000	989,881	15,119	98%	
	修繕費	100,000	100,000	99,972	28	100%	
合計		1,683,000	1,495,000	1,479,849	15,151	99%	



## 1. 学校組織マネジメントとは(おさらい)

「マネジメントには、自らの組織をして機能させ、社会に貢献させるうえで三つの役割がある。それら三つの役割は異質であるが同じように重要である。

第一に、企業、病院、大学、自らの組織に特有の目的と使命を果たす。

第二に、仕事を生産的なものにして働く人たちに成果を上げさせる。

第三に、自らが社会に与える影響を処理するとともに、社会の問題解決に貢献する。」

(ドラッカー『マネジメント』より)

## 学校組織マネジメントにおける 事務職員の職務について

第4回教育条件整備研究会(山梨支会)  
2017.7.31 加納岩小学校 小会議室

### 学校においては

- 教育目標を達成するために、人材・資金・設備・物資・スケジュールなどをバランスよく調整し、全体の進捗状況を管理する手法がマネジメント
- 「学校も組織」といわれて久しいが、組織として機能している？
- 校務分掌は役割分担表であって組織表ではない
- 本務を全うする・・・その職務の本務を他職が担うことではない

### 期待される事務職員(組織の構成員)

役割・・・唯一の行政職員(教育行政の専門職)  
機能・・・本領発揮

## 学校事務職員のPDCA

P…学校事務執務計画

D…日常業務

C…ふりかえり、周囲の評価

A…更なる改善



## 学校事務は、創造的な仕事

・ 事務は作業層ではない

① 気づいて

② 意識して

③ 工夫して

④ 改善する



## 『セルフマネジメント』 ドラッカー『マネジメント』より

「一流の仕事をするには、まず自己の強みを知ること。

そして、仕事の仕方を知り、学び方を知る。価値観を知る。

自己を知ること、得るべきところがわかり、なすべき貢献が明確になる。」

## 弱みと強みに気がつきましょう

・ 私の弱みは何でしょう

・ 私の強みは何でしょう

・ 弱みは、強みでカバー

・ 個人の弱みは、共同学校事務室  
(共同実施)で強みに変える

資料5

私費の取扱について

1. 目的

私費に関わり、昨年度・一昨年度と各学年の積立金の収支・教材費の内訳等を調査してきました。今年度は、職員の多忙化がとりあげられていることを受けて、職員の負担感軽減にむけて事務職員としてできることは何かを探ることを目的として、私費に関わる会計処理の効率化について研究を進めていきたいと思えます。

2. 内容

ステップ1…目的の確認，現状把握のための意見交換（①）

ステップ2…必要に応じて職員から聞き取り（ステップ1をうけて，②へ）

ステップ3…課題整理と今後の改善について（③，④）

ステップ4…改善策の実践（⑤）

私費の取扱について（確認シート）

①徴収方法
手集金 or 口座振替
②職員がどんなときに負担に感じている様子か (例) 集金を金種ごと仕分ける時・口座の代表者変更時・決算を出すときの利息の取扱 等
③②に対して，手助けできそうなことは何か
④他校の様子を受けて，③に加えて自校にいかせそうなことがあれば
⑤（実践してみた学校は）職員の反応